

## 平成 27 年度業務実績評価に係る論点整理（案）

## ◇ 基本的な考え方

年度評価実施要領における年度評価の方針及び第 1 回公立大学部会における各委員の発言内容を踏まえ、次のとおり整理した。

## 指摘事項について

- ・「自己点検・評価について」は業務実績報告書の内容について改善が見られた。
- ・「年度計画の設定について」は、目標達成の目安となる数値や実施すべき事項の設定などについては不十分な点もあることから、指摘事項として明記する。

## ◆意見交換における委員発言（主なものを要約）

委員名	発言要旨
谷山部会長 田中委員	<p>【自己点検・評価について】</p> <p>報告評価の記載が今までと比べると格段にわかりやすく、非常に良かったが、今後、「通常業務」と「計画」をどのように棲み分けするか、また評価項目が多く整合性が取りにくいいため、絞り込む必要。</p> <p>大学・病院で何が行われているのか全職員が共通の認識を持つ必要。</p>
鈴木委員	<p>【年度計画の設定について】</p> <p>国立大学の評価は、同じ形式で行っているが、すべて A 評価とならない。計画の提出にあたっては、かなりハードルの高い数値目標を設定し、文科省に提出</p>

## 《昨年度の指摘内容》

## (1) 自己点検・評価について

自己点検・評価に係る業務実績の各項目の記載において、表現に統一性がないほか、実施内容が明確でない事例が散見された。年度評価は、評価を通じて法人の業務運営状況を分かりやすく道民に示すことをその方針の一つとしており、このことを法人全体が認識した上で、業務実績報告書の作成を行う必要がある。また、各項目の自己点検・評価に当たっては、法人において業務運営の改善に資する観点から十分に検証を行い、その理由を明確にする必要がある。

## (2) 年度計画の設定について

法人において、前年度までに実施が決定され、当該年度にその項目を当然に履行することとなる業務を当該年度の取組計画とすることは適当ではないことから、中期目標・中期計画の達成につながるよう、適切な内容とする必要がある。また、年度計画の設定に当たっては、数値や決定すべき事項など、各項目において目標としている到達度が客観的に分かる記載とする必要がある。